

会議録（会議要旨）

会議名	第11回武蔵村山市内循環バス検討協議会
開催日時	平成20年6月26日（木） 午後3時00分から午後4時30分まで
開催場所	301会議室
出席者及び欠席者	<p>（出席者）</p> <p>委員：加藤 敬成（小椋氏の代理人）、金井 治夫、佐藤 達雄、国田 正徳、斉藤 静子、茂野 宏美、高橋 薫、高橋 哲、中島 謙一、樋口 豊子、比留間 勉、藤井 敬宏、副市長（敬称略）</p> <p>オブザーバー：立川バス㈱</p> <p>事務局：企画財務部長、企画政策課長、樋口 雅秀</p> <p>（欠席者）</p> <p>委員：大井 英明（敬称略）</p>
議題	<p>1 報告事項</p> <p>（1）第10回市内循環バス検討協議会の会議結果について</p> <p>2 議題</p> <p>（1）市内循環バスのあり方について</p> <p>（2）その他</p>
結論	<p>報告事項</p> <p>（1） 第10回検討協議会の会議結果については一部修正の上、決定した。</p> <p>議題</p> <p>（2） ・運行ルートについては、市民意見に対する協議会としての意見を報告書に盛り込むこととし、当初の案どおりとする。</p> <p>・運賃については、民間バスとの競合による影響や本市の状況を勘案し、対キロ運賃制を継承することとする。</p> <p>（3） 第12回会議については、7月28日（月）午後1時30分からに変更し、第13回会議については、8月25日（月）午後1時30分からに決定した。</p>
審議経過 （ は会長、副会長委員、 は事務局、はオブザーバー）	<p>報告事項1 第10回市内循環バス検討協議会の会議結果について</p> <p>事務局から「第10回市内循環バス検討協議会の会議結果」について説明。 一件修正の意見があったことから、一部を修正の上、決定としたいと思う。</p> <p>議題1 市内循環バスのあり方について</p> <p>市民の皆さんに意見等を含めて、ルートや時間を検討していきたい。</p> <p>ルートについて、市民意見を受けてルートを見直さなければいけない部分が事務局としてあるか。</p> <p>体育館までの乗り入れの意見が多かったが、日中は入ることとしているので大丈夫ではと思っている。その他は少数意見であったが、伊奈平四丁目を通してもらいたいとの意見であるが、OD調査上は乗降客が少ないのでいいのではと思っている。また、武蔵砂川ルートの三ツ藤付近の通勤時短縮ルートを採用してはとのことがある。</p>

市民意見に対する理由を開示することは考えているか。協議会の報告に盛り込めばいいと考えているか。

今回の変更案に対する市民意見に個別に答えるのは難しいと考える。全体として協議会でこうしたというものを報告書に盛り込めればと思っている。

市民がルート案を見ているので、報告義務があると思う。協議会で方向性を取りまとめることで整理していただきたい。

短縮ルートについては行わず、原案のままという形での考え方を作っていただきたい。

17ダイヤとすると金額が上がりそうであるが、全体の金額は上げずに10台を維持しながらサービス水準を上げたい。

市民要望にある本数を増やすことは難しい。

収入予測については、試算する方法が難しいため、運賃に関する乗客の伸び率は前回の報告を採用し、人数は18年度実績で試算した。

試算する方法は難しい。ルート変更によりどの程度循環バスに転換するかなど、これからの運用の仕方で変わってくる。

対キ口運賃制で乗り換えをした時の対応については、バス事業者で検討していただきたい。

運賃については、前々から意見がある。路線バスと競合することもある。均一とした場合、路線バスから循環バスに転換してしまうこともある。他市で均一を行っているところは、鉄道に近接している。今回、通勤と日中時のルートとしたことから、この経過も見ながら考える必要がある。

当面は対キ口運賃でいった方がいいのではと思う。

受益者負担もわかるが、バスを買い替える時にでも小型にしたらどうかと思う。検討も必要である。

年間8,500万円の補助を出していることから、次はいかに安いバスを使用するかということも議論できたらと思う。

前にも意見があったので、バスを小型化するなどの意見については、協議会としての意見を盛り込むことはいいと思う。

対キ口運賃については、本市の地形は東西に長い気がするから妥当であると考ええる。

財政状況からみると、100円均一はありえない。

市民感情からするとどこに住んでいても同じ運賃という方がいいのでは。市内循環については均一がいいのではと思う。

対キ口運賃が望ましいとの話があったが、競合路線としてどの程度の影響が出るのか。

従前から議論があり、170円なり200円なりをもらっている路線からすると赤字になる。他社についても影響は出る。路線バスの本数を減らさざるを得ない。現実として市役所を過ぎるとあまり乗っていないが、他市のようにコミュニティバスをしていれば影響はないが、競合しているところがかかなり多いのでバス会社にとっては影響が大きい。

循環バスが170円均一とした場合、最低170円を超えたところから転換すると

思う。上北台ルートはかなり路線が競合している。

利用客が転換するとなると、現在も路線バスの本数が少ないので、現行運賃で行う方がベターではないかと思う。

武蔵村山の場合、それほど需要は伸びないと思うが、イオンモール等へは自転車で行く人も多い。そういったことから安くすることはできないのではないか。

運賃は下げられないと思う、下げても乗らないと思う。

車利用が多いのでなかなか乗客増に直結しないことから現行どおりとした方がいいと思う。

均一にすると隣のバス停まで170円、遠くても170円だと不公平であると思う。

バス会社と市民の考え方が複雑だったが、他の路線に影響があるので対キロの方がいいと思うし、均一にすると設備費もかかってしまうと思う。

利用者にとっては1コインで乗ればいいが。

現行の対キロ制でいった方がいいと思う。これから先も続けていくには、運賃を下げずに利用促進を進めていった方がいいのではと思う。

7月には確定していかないといけない。決まるものがあればどんどん決定していきたい。

できれば、運賃の方向性だけでも確定させたい。

市にとって鉄道駅がない。市民サービスを確保しなければいけない。民間バス会社とも競合する。路線ごとの差もある。

実質的な運行として対キロ運賃ということでもいいか。

賛成である。

協議会の方向性として対キロ運賃制を採用することとする。

乗継をどうするか。

乗継を立川バスで運用できるかどうか。

届け出をすれば可能であるが、どうやるかである。バスカードの乗り継ぎは機械的にできないので、現金のみの運用となってしまうのではと思う。

その他のしくみとして、運用改善に盛り込めるのかどうかを報告書に入れたいと考えている。

どう運用すればメリットがあるのか等を検討してもらいたい。

バス停の関係もある。次回あたりバス停について落してもらいたい。

現地を確認しながら次回に示すという方向で進める。

乗継があると複雑になるので、区間券などの回数券を発行するという制度は考えられないか。

以前やったことがあって、何種類か作らなければいけないが、市として良ければ可能である。

武蔵砂川駅の乗り入れについてであるが。

立川市とはまだ具体的な調整を行っていない。

立川市と協議してもらいたい。

その他（次回協議会開催日程）

次回の開催は、7月24日（木）午後1時30分から決定していたが、7月28日（月）の午後1時30分から変更することとした。また、第13回の会議を8月25日（月）午後1時30分から開催することに決定した。